

Part 12, Vols 47-51: Women's History, 3rd Series

定価 本体95,000円+税・全5巻・ISBN 978-4-86340-195-2・菊判

イギリス女性レファレンス 1910-30年代

イギリス女性運動の歴史において極めて重大な時期である 1910 年代から 30 年代の各年代に出版されたイギリス女性についての重要な人名録ないし年鑑。

弊社復刻刊行の The Englishwoman's Year Book and Directory, 1899-1916 を補完する重要資料集。

Contents

Volume 47: A. J. R., ed. *The Suffrage Annual and Women's Who's Who, 1913* (1913*)

ISBN 978-4-86340-196-9・416 pp.

定価 本体 18,000円+税

1913 年刊行の本書は戦前期の女性参政権への宣伝活動についての非常に珍しい重要な史料。参政権運動関係の組織の案内と、参政権運動に関わる「1000 人近い女性と、この主張信条に賛同した主要な男性」の人名録という構成である。主に労働者階級で組織され、民主的な参政権と両性の社会的平等を掲げていた People's Suffrage Federation の人物は含まれていない。

本書は年鑑としての刊行が計画されたが、第一次世界大戦の勃発のためか継続刊行されなかった。この 1913 年度版が唯一刊行されたものである。編集者 A. J. R. については不明。

Suffrage Societies・Suffrage Clubs・Other Women's Associations Interested in the Franchise・International Woman Suffrage Alliance・Men's International Alliance for Woman Suffrage・Officers Federations, Branches and Work of the Societies・The Women's March・Where Women Are Enfranchised・Suffrage Organs・Dictionary of Dates・Conciliation Bill: List of Voters・Who's Who

* Date according library catalogues; no other editions published

Volume 48: G. Evelyn Gates, ed. *The Woman's Year Book, 1923-1924* (1923*)

ISBN 978-4-86340-197-6・704 pp.

定価 本体 24,000円+税

[平等市民権期成協会全国同盟] (National Union of Societies for Equal Citizenship, NUSEC) により編集され Women Publishers から 1923 年に刊行された。NUSEC は、1919 年 3 月の年次総会で組織改編を決定した「女性参政権協会全国同盟」(National Union of Women's Suffrage Societies, NUWSS) が改称したもので、前の組織の活動を引き継いで、すべての女性に対する選挙権を求めてロビー活動を行い、その他のあらゆる種類のフェミニスト的要求について宣伝活動を行った組織である。本書は、政治、教育、法制など女性解放にかかわるあらゆる事例が盛り込まれており、特に女性の職業、労働市場における地位については特段の注意が払われているもので、1920 年代を通じての女性運動についての重要な一次資料である。寄稿者には当時の錚々たる人物が名を連ねている。残念ながら刊行されたのは結局この版のみで、付録として女性人名辞典も企画されたようだが実現していない。

Woman's Emancipation・The Woman's Year・National Government・Justice・Local Government・The League of Nations・Women and the Law・Committee Procedure・Women's Sports・Education・Vital Statistics・Occupations of Women・Women in the Labour Market・Migration for Women・Women in the Professions・Careers for Women・Hints on Present-Day Banking・Investment・Women and the Home・Social Work・The Co-operative Movement・Women in the Economics of the Country・The International Council of Women・The Position of the Woman Abroad・Travel・Directories・Bibliography・Index

* Date according library catalogues; no other editions published

Volumes 49 & 50:
Hutchinson's Woman's Who's Who, 1934 (1934*)

ISBN 978-4-86340-198-3・

2 vols・906 pp.

定価 本体 33,000円+税

Hutchinson 社の *Woman's Who's Who* (1934 年刊行) は 1930 年代のイギリスの女性運動家の基本レファレンスである。The Ladies' Court Book (1908-18)、Ladies' Who's Who (1919-30) の継続書として意図されたもので、功績のあった女性をすべて収録するために大型化され、副題によれば「芸術、慈善活動、教会関係、公務員、教育、法律、文学、報道、医療、音楽、議会、科学、地域活動、演劇、映画、スポーツなど」と多岐にわたって取り上げられている。改訂新版は刊行されていない。2 部構成となっており、第 1 部 (Vol. 49) は人名録、第 2 部 (Vol. 50) はあらゆる職業組織とそこで活動している女性のいわゆる情報録である。

Vol. 49: Biographical Notes

Vol. 50: Organizations, Professions, etc.: Accountants and Auditors・Architects・Art・Associations, Councils, Federations, etc.・Aviation・Barristers and Solicitors・Charity・Church・Clubs・Education・Engineering・Farming, Gardening, Animal Breeding, etc.・Housing・Insurance・Justices of the Peace・Literature and Journalism・Local Government・Medical・Nursing, Mothercraft and Women's Hospitals・Parliament・Peace・Political・Religious Societies・Scientific Research・Social Work・Sports Associations・Theatre and Music・Trade Boards・Young Women's Associations

* Date according library catalogues; no other editions published

Volume 51: *The Lady's Who's Who: Who's Who for British Women, 1938-39* (1939*)

ISBN 978-4-86340-199-0・564 pp.

定価 本体 20,000円+税

1939 年 Pallas Publishing 刊行の、副題にいう「社会、芸術、専門職、ビジネスなどで傑出した女性たち」を掲載した人名録。出版社いわく、編集のために 10 万通近くのアンケートを送付した大規模なもの。標準的な Who's Who 形式による。まさに人名録そのものであるが、これが便利なのは大量のエントリーがあることとともに、主だった職業ごとに名前が配列されている点である。科学、スポーツ、専門職、医療、芸術、文筆業、教育、福祉、商業やビジネス、社会生活関係、地方行政、議会などといった項目が立てられている。これもまた続刊はできていない。

General List・Lady Members of the Royal Family・Ladies of Rank・Women in Science, Sport, the Professions, Hospitals, Art, Literature and Journalism, Education, Social Welfare, Commerce and Business, Other Sections of Social Life, Local Government, Parliament・Women's Clubs and Societies・Women in Air Raid Precautions and the Territorial Army Association・Women's Journals and Magazines

* Date according library catalogues; no other editions published

MIGRATION FOR WOMEN

By DAME MARIEL TALBOT, D.B.E.



Dame Mariel Talbot

The British Empire spread as it is over the world's surface reach, such, such, and such, except about one-fourth of the total land area of the world. It comprises a considerable population, over 400,000,000, and with the most varying character. It is a vast and varied domain. Let the attention be directed to it as if a separate unit were drawn to scale, and the same field by water representing ocean before. What is the result?

1. In the British Isles, the Mother Country of the Empire, there are to-day 370 people to the square mile.

2. In Canada, where the country stretches down the Atlantic on the east to the Pacific on the west, and occupies a space about equal to that of Europe, we find only there are 22 people to the square mile.

3. In Australia, including its "Isles of Wight," Tasmania, where the area is larger than that of the whole of the United States, there are 12 people to the square mile.

4. In New Zealand, still further south and stretching as far as from the Skilled Islands to St. Malo, in France, there are 122 people to the square mile.

5. South Africa again, the southern part of the African continent, occupies a space of the world's surface as wide as France, Germany and England combined. In this part of the Empire there are only 22 people to the square mile, as well as Dutch and English who together number 1,250,000. The population to the square mile is 170.

6. Finally, that magnificent young country, South of the Tropic of Capricorn, has already four people in every square mile. It must be remembered that its history as part of the British Empire dates back only to 1835.

Such facts as these are sufficient evidence of more immigration, and since this article is concerned with migration, or the distribution of British population, no reference is made to India or the Crown Colonies, where it is to be seen, generally, that settlement is not so rapid as in the Empire.

両大戦間期のイギリス女性(男性も!)の 生きざまに迫る貴重な資料の復刻

河村 貞枝 ●京都市立大学名誉教授

このコレクションは、アティーナ・プレスから復刻された「イギリス女性年鑑 1899-1916」に続くものである。これによって、1910年代、1920年代、1930年代に出版されて、残存しているイギリス女性の重要なディレクトリ・人名録の復刻が完結する。

この時代は、周知のように、イギリスの女性運動(フェミニズム)の歴史において極めて重要な時期であった。中でもっとも有名なのは、ヴィクトリア時代の半ばから執拗な運動が展開されてきた女性参政権要求が、第一次世界大戦を経て、1918年と1928年における二つの「国民代表法」によって女性に選挙権・被選挙権が与えられるという結末を見たことである。また、1920年代には、不名誉な女性差別的語法令に対して、重要な改正が次々行われた。とくに1919年の「性差別廃止法」によって、公務員的な専門職や治安判事職等に女性が参加できるようになった。また、1920年代に相次いで、既婚女性の財産相続権、婚姻事件において男女の離婚事由を平等なものとする法律改正が実現した。これらは、両大戦間期の女性解放史の画期的事件のほんの一例である。

今回の「イギリス女性史レファレンス、1910-1930年代」は、47-51巻までの全5巻で成る。ディレクトリ、人名録というのは、利用者にきわめて多種多様な使い道を提供してくれる人物情報の宝庫である。イギリスの多様な女性史に関心をもつ者は、まずは「イギリス国民伝記事典」(DNB)に頼るが、とくにミッシング・パーソンズ版に続いて、21世紀に入ってオックスフォード版 DNB が再編成されて、その後もオンライン版が次々とエントリ数を増加させている。この DNB は、人物が死して初めてエントリの対象となる。そこが、本コレクションの人名録の項目とは異なる。本コレクションが扱う両大戦間期に現存リアルに活動していた人物や団体の資料集、これまでマイクロフィルム等でしか利用できなかったものが、冊子体で復刻されるということは何よりも喜ぶたい。

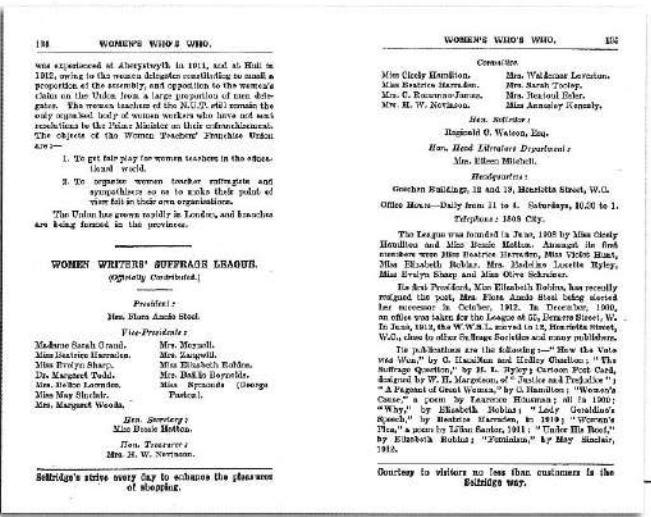
第47巻、*The Suffrage Annual and Women's Who's Who* は、第一次世界大戦勃発が予測されていない1913年に刊行された、女性参政権諸団体の名簿と活動家の人名録である。書名通り「年鑑」、つまりペリオディカルであり、以後毎年継続刊行を予定していたはずのものが、「予期せぬ」大戦勃発によって、本年鑑一回きりの刊行物となった。編者 A. J. R. に関して、残念ながらもまだ特定できない。ここに



は、692名の女性と69名の男性の個人情報提供されている。穏健派「女性参政権協会全国同盟(NUWSS)」と戦闘派「女性社会政治同盟(WSPU)」の二大女性参政権団体にとどまらず、その他の大小の参政権運動諸団体への加盟状況や活動状況、人間関係や個人的趣味などの情報も得られる。本年鑑を丹念に分析すれば、女性参政権活動家の階級分析なども可能となる。また編者同様に詳細が不明だが、この年鑑が、1909年にロンドンのオックスフォード街に小売業店として始まった、いまやハロッズと並ぶデパートメント・ストアとして有名な「セルフリッジ」がスポンサーとなっていたことにも、大戦前夜に日常化された政治の一面を感じさせられる。まさに「個人的なことは政治的である」という言葉を思い起こされる。

第48巻、*The Woman's Year Book, 1923-1924* は、「平等市民権期成協会全国同盟(NUSEC)」によって編纂されて、1923年に Women Publishers が刊行した年鑑である。NUSEC は、第一次世界大戦の終わりにやっと制限付きにしろ女性参政権が成立したことにより、NUWSS が1919年の年次大会において、NUSEC への編成替えと改名がなされて、1923年には、家族手当をめぐる指導者間の抗争から、会長がミス・G・フォーセットからエリナー・ラスボーンに代わった。NUSEC は、制限付き選挙権が全ての女性に付与されるためにロビー活動を続け、同時にその他あらゆる種類のフェミニスト的諸課題のために活動を続けた。本年鑑は、1920年代の女性の運動についての重要な一次資料である。政治、教育、法律等について女性に関わるあらゆる局面を網羅するが、それにとどまらず、女性にとってのキャリア、専門職、さらに労働市場における女性の立場について特別な注目を払っている。本巻の寄稿者には当時の有名な女性が名を連ねている。フォーセットとラスボーンのほかに、アバディーン侯爵夫人、マーガレット・ボンドフィールド、マーガレット・ルウェリン・デーヴィス、ロンドン子爵夫人など故筆に暇がない。残念なことに、本年鑑も続刊は出ず、同時刊行を計画されていた「人名録」も実現しなかった。

第49 & 50巻 *Woman's Who's Who (1934)* と 第51巻 *The Lady's Who's Who: Who's Who for British Women (1939)* は、それぞれ Hutchinson と Pallas Publishing の出版であり、ともに1930年代のイギリス女性の基本的な参考文献である。前者は、本巻のサブタイトルが示すように、「芸術、慈善、教会、公務員職、教育、法律、文学、ジャーナリズム、医業、音楽、議会、科学、社会および自治体の諸問題、劇場、フィルム事業、スポーツ等々に傑出した」あらゆる女性を含んだ。この出版事業は、2部構成で、前半(49巻)が「伝記」、後半(50巻)は女性が活動する諸団体のディレクトリとなっている。続く第51巻は、サブタイトルにあるように「社交界、芸術、専門職、ビジネスなどで傑出した女性で構成されている」が、出版者はこの人名録を編むために、質問用紙を10万通近く送付したという。この人名録が後続の巻を出せなかったのもさもありなんと感じさせられよう。



【発行】
Athena Press
 株式会社 アティーナ・プレス



〒112-0011 東京都文京区千石4-33-18
 Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026
 E-mail: eigyo@athena-press.co.jp
 http://www.athena-press.co.jp

【取扱書店】

15.09